

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

第35回

全国都道府県中学生相撲選手権大会



開会式 南和文（日本相撲連盟会長）が挨拶

第35回全国都道府県中学生相撲選手権大会

団体戦、熊本県が7年ぶりの優勝



団体戦・大将戦＝佐藤（熊本・手前）が下手投げ

第35回全国都道府県中学生相撲選手権大会（主催Ⅱ日本相撲連盟）が8月11日に東京・両国の国技館で行われ、団体戦と個人の部（無差別級・軽量級）で優勝を争った。

団体戦の決勝は、3度目の優勝を目指す熊本県と高知県の試合となり、2－1で熊本県が接戦を制し、7年ぶりの優勝を飾った。

個人戦・無差別級の決勝は、前回大会3位の片桐恭晟（石川）と橋本義成（熊本）の対戦。片桐が引き落としを決めて前回大会の雪辱を果たした。

同軽量級の決勝は、加藤守陽（愛知）と山野邊玲優（茨城）の対戦。2回の取り直しの末、加藤が優勝を手にした。

大会では開会式後に令和6年度少年少女武道優良団体の表彰が行われ、大川道場（広島）、辺野古相撲クラブ（沖縄）へ表彰状が授与された。

団体戦

予選は各チーム3試合を行い、勝ち数が多い16チームが決勝トーナメントに進んだ。

決勝トーナメントでは熱戦が繰り広げられ、準決勝の顔ぶれは、熊本県、高知県、青森県、石川県となった。

準決勝第1試合、熊本県と青森県の対戦は、2-1で熊本県が勝ち、今大会個人戦・無差別級準優勝の橋本と同3位の佐藤珀呂汎を有する選手層の厚さを見せつけた。

準決勝第2試合、今大会無差別級で優勝した片桐を擁する石川県に、2-1で高知県が勝利、決勝へと駒を進めた。



ナランバタ（左）が橋本を外掛け



大手（左）が浜田を寄り倒し



決勝

熊本県 2-1 高知県

先鋒戦

橋本義成 外掛け○ナランバタ オーダム
(熊本) (高知)

団体戦決勝トーナメントで負けなしの橋本とナランバタとの対戦。

立ち合い、橋本が鋭く踏み込んで技を掛けようとしたところをナランバタが外掛けで勝利。

中堅戦

大手星来 ○寄り倒し 浜田美汰
(熊本) (高知)

立ち合い、両者激しくぶつかり合う。浜田が足を掛けようとするが、大手は浜田のまわしを両手でつかんで持ち上げた。浜田の両足が浮いたところを大手は勢いそのまま体を浴びせながら寄り倒した。

大将戦

佐藤珀呂汎 ○下手投げ アナンドアディヤ
(熊本) (高知)

佐藤は今大会無差別級で3位となり、団体戦決勝トーナメントで負けなし。優勝が決まる重要な試合。両陣営とも選手の背中を叩き、気合を入れた。

立ち合い、体重差で勝るアナンドが佐藤を土俵際まで追い込むが、佐藤が下手投げを決めて優勝を勝ち取った。

■個人戦・無差別級(70名)

16ブロックに分かれてトーナメント戦を行い、各ブロックの優勝者が決勝トーナメントに進んだ。

決勝は前回大会3位の片桐と183cm・125kgと恵まれた体格を持つ橋本との対決となった。

決勝トーナメントの結果は以下の通り。

◆決勝トーナメント1回戦

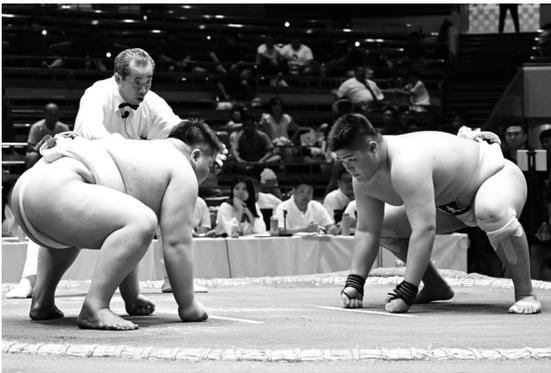
片桐 恭晟	寄り切り	テジーンテレン
古山 宙	引き落とし	佐々木泰寿
椿 留一	引き落とし	横山 奏
佐藤珀呂汎	下手投げ	手塚 結斗
菅間 奏心	押し出し	原田 泰誠
クシミー光輝	寄り切り	浜田 美汰
牧 鷹山	突き落とし	寺尾 彦太
橋本 義成	突き出し	中村 颯斗
◆準々決勝		
片桐 恭晟	押し出し	古山 宙
佐藤珀呂汎	寄り切り	椿 留一
菅間 奏心	突き落とし	クシミー光輝
橋本 義成	寄り倒し	牧 鷹山
◆準決勝		
片桐 恭晟	押し出し	佐藤珀呂汎
橋本 義成	寄り切り	菅間 奏心

■決勝

片桐恭晟 ○引き落とし 橋本義成
(石川) (熊本)

立ち合い、激しくぶつかり合うが、片桐は一瞬の隙を見て橋本を引き落として勝利した。

わんぱく相撲でも注目をされていた片桐は前回大会3位の雪辱を果たした。片桐は炎鵬関(伊勢ヶ濱部屋)と大会前に会い、「自信を持って行け」とアドバイスされ力を貰ったと決勝後に語った。



片桐(左)と橋本の立ち合い



片桐(左)が橋本を引き落とし

好評発売中!

相撲 その歴史と技法

歴史を通して相撲の技法がどのように条件づけられ推移してきたかを、写真やイラストを交えながらわかりやすく解説。

東京大学 大学院法学政治学研究所 教授 **新田一郎** 著



四六判・上製・422頁・定価2,640円

◎ ご注文・お問い合わせ ◎

(公財)日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<https://www.nipponbudokan.or.jp>

個人戦・軽量級 (46名)

幅広い選手の参加を促すために、第21回大会(2010年)から軽量級(75kg未満)が始まった。軽量級には各都道府県(奈良県を除く)から1名ずつ計46名が出場し、トーナメント方式で優勝が争われた。

決勝に進んだ両者は、中学2年生・加藤が169cm・63kgに対し、中学3年生・山野邊は165cm・65kgと互角の体格を有する。共にスピードがあり、自分よりも大きい相手に勝利してきた二人が頂点を争った。

決勝トーナメントの結果は以下の通り。

◇決勝トーナメント1回戦	
山野邊玲優	突き出し 池田琥太郎
東島 大夢	下手投げ 吉田 琉聖
割谷 純虎	寄り切り 室谷 優輝
玉城 鳳真	打っ棄り 戸田 勇翔
加藤 守陽	掛け投げ 平戸 琉輝
中村 祐俊	突き出し 鈴木獅弄琉
杉原 聖椰	寄り切り 工藤 慧
鳴海 百起	押し出し 廣渡 翔和
◇準々決勝	
山野邊玲優	突き出し 東島 大夢
玉城 鳳真	上手投げ 割谷 純虎
加藤 守陽	突き落とし 中村 祐俊
杉原 聖椰	小手投げ 鳴海 百起
◇準決勝	
山野邊玲優	突き落とし 玉城 鳳真
加藤 守陽	肩すかし 杉原 聖椰

決勝

加藤守陽 ○小手投げ 山野邊玲優

(愛知) (茨城)
両者とも綺麗な仕切りをみせ、すぐに立ち合いに。加藤がもろ差しから一気に吊り出そうとするが、山野邊の打っ棄りで同体。取り直しもさらに同体。3回目の取組、加藤は「負けてもいいから投げてやる」と気迫のこもった小手投げを決めた。

加藤は今大会が初めての全国大会。相撲は小学校高学年から始め、週1回の稽古を行っている。柔道の経験もあり、中学校では110km/hを投げる野球のピッチャーもこなし、運動神経の良さが窺える。



3回目の取組・加藤(左)が小手投げで優勝を決める